

新斎苑建設計画に関する基本計画及び平成28年12月議会での補正予算について

2016/12/13

日本共産党奈良市議員団

1、現在の東山霊園火葬場（白毫寺町）は大正5年に開設されその後、数度の改修がおこなわれたものの8炉しかない上に老朽化が著しく、受け入れが限界を超えています。申し出から火葬まで正月明けは7日間待ち、通常でも1～2日待ちが頻繁に起きています。また狭あいな施設は今日的な火葬場とは程遠い施設となっており、新しい火葬場の建設は市民全体の切実な願いとなっています。

法的には民間事業者による火葬場建設が可能であるにも関わらず、建設に至るまでの合意形成の困難さや採算性に見通しがいいことから県内33の火葬場はすべて公設であり、奈良市でも市長が責任をもって建てなければならない施設です。またすべての市民がいずれお世話になる施設だという意味できわめて公共性の高い施設です。その立場から早急に解決を図らなければならない課題と位置づけ取り組んできました。

2、我が党は平成28年1月に奈良市が発表した「新斎苑基本計画（案）」で示された横井町山林での建設計画について、安全性の担保と住民合意の必要性を繰り返し議会で求めてきました。また専門家の知見もいただきながら、計画地の断層調査、及び第三者評価の実施を議会で求め、市はそれらを実施してきました。

これまで1年以上の時間をかけて土質調査、地質調査、斜面安定解析調査、環境影響評価、またこれらを踏まえた第三者評価、断層調査の6つもの調査が行われてきました。これらの調査全体を踏まえ見直された基本計画については、安全性は基本的に確保されたと考えます。

しかし今後、深めなければならない点、対策を打たなければならない点もあり引き続き対応を求めていきます。また計画地西側の鹿野園地域の災害リスクの懸念に対しては、地元活性化策ではなく防災対策として位置づけ取り組むよう求めたところ「積極的に防災対策に取り組む」と市長も答弁しました。今後もその実施を求めていきます。また事業費の一層の縮減を求めていきます。

奈良市は12月議会の開会に先立ちこれまでの調査結果などを踏まえ「新斎苑基本計画」（平成28年11月）を発表しました。また、12月定例議会にアドバイザー業務委託、アクセス道路橋梁予備設計など総額8200万円の補正予算が提案されました。

発表された基本計画は施設の位置や規模を当初の「基本計画（案）」から見直しをするとともに盛土の量を3分の1に減らすなど第三者評価で指摘された事を全て踏まえたものとなっています。同時に問題はこれらが具体化されてもその中身が骨抜きにならないよう今後、議会としても市民の側からもチェックを怠らないことが重要であり、施行後も、盛土部の地盤状況等の情報の公開を求めました。それに対し市長は「地元住民を含め広く市民、議会への情報公開、情報共有の徹底を図る」と答弁しました。

我が党はこうした経過や到達を踏まえ、「新斎苑基本計画」を基本的に可とするとともに、市民の切実な要求となっている新斎苑建設をすすめる立場から12月議会に提案されている新斎苑建設の関連予算に賛成するものです。

3、なお、この建設計画については反対の主旨の請願（一部審議中のものを含む）や賛成・推進の陳情も出されている状況であり、市に対して引き続き市民のみなさんの理解を得るよう求めていきます。